

千年の森便り No.195

2019.10.25

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

10月20日（日）晴

9月の台風15号の甚大な被害の復旧半ばで、10月には更に大型の19号が襲いましたから、令和元年は千葉県民にとって忘れられない年になりそうです。

当会においても、10月恒例の公開きのこ観察会は危険防止の観点から中止せざるを得ない状況になりましたが、吹春先生にお越し頂き、会員限定の観察会として活動は継続しました。当日はきのこ観察グループと倒木や幹折れなどの危険木の処理グループに分かれての行動となりました。適度な雨の後だったので、きのこの発生に恵まれ、観察グループはお昼の時間も忘れて観察に熱中していたようです。危険木処理グループは待ちきれず弁当を広げていました。

午後の同定会は何時もの公開行事であれば、お客様が最前列に陣取り、多くの会員は遠慮して遠巻きに先生の解説を聞いていましたが、今回は少人数でしたから全員がじっくりとお話を伺えました。ベテランの会員が頷きながら熱心に聞いている姿が印象的でした。会員にとっては塞翁が馬、禍転じて福と為す一例だったかもしれません。（坂本）

参加は吹春講師ご夫妻に秋元、新井通子、鶴沢、苅米、久我夫妻、坂本、田島、中田真也子、成沢、福島、真鍋、松田の会員に、ちば里山pの友塚さんも加わり16名でした。



〇きのご観察：「禁断の岬コース」と「ホテイ岬コース」

午前中に「禁断の岬コース」へ。吹春先生もあまり行かない場所ということできのこ観察を満喫されていました。道中では、チシオタケ、ホウライタケ、オニフウセンタケ、コイヌノエフデ、ベニタケの仲間、ウラベニホテイシメジ、そしてバカマツタケなど、たくさんのきのこを見つけられました。

また、今年の台風の影響と思われる樹木の根返り箇所が尾根上にもあり、一部道が無くなってしまいました。岬の先端までのアクセスは、より一層困難なものとなり、名実ともに「禁断の岬」に……。

禁断の岬から広場へ戻る道中（島の南西側の平坦地）では、コナラ等の倒木が目につきました。倒木や折れ落ちた太い枝を見ると、ヒイロタケの菌糸が張り巡らされており、分解者としての“お仕事”に精が出ているようでした。ここでは、サクラタケ、カバイロツルタケ等も見られました。そしてきのこを探していると、目の前にとぐろを巻いたマムシさん！！（お邪魔しました～、速やかに撤退～）



禁断の岬健脚コースのきのこ観察 吹春先生は急斜面でバカマツタケ撮影 木登りしてきのこ撮影 コナラにヌメリツバタケ(中田)

午後は「ホテイ岬コース」へ。岬へ向かう道中、なんと吹春先生がバカマツタケを発見！！ 午前中のような大変な思いをしなくても、道脇にもあるんですね。他にもモミの木やマツの近くに出るウスタケが多数と、広葉樹林の中では淡いピンク色をしたサクラシメジが見られました。ホテイチクを囲った柵の場所では、コナラにヌメリツバタケが出ていました。折れ落ちた幹からも出ていたため、間近で見ることができました。普段は木の高いところに出るため、なかなか近くで見られないようです。

両コースでは、クロラッパタケやミネシメジがたくさん見つかり、また観察会全体でもミネシメジが一番多く見つかったようです。今回は少人数での観察会となりましたが、多くの種類のきのこを観察でき、とても楽しかったです。(成沢) (吹春先生の当日のきのこ採集品目録には60種記録されています。)

○吹春講師の解説要旨 (中田真也子記録)

秋の観察会でいつも見られるコウタケはなく、ウラベニホテイシメジも小さな幼菌が1点見つかっただけでした。秋のきのこの発生が遅れているのかもしれませんが。

今回は会員のみということで、多く見られたきのこ、珍しいきのこ、森林の分布を知る上で重要なきのこなどについて手短かに解説します。

■ベニタケ科のきのこ

ヒダを傷つけると透明な乳が大量に出て、のちに紫褐色に代わるきのこが沢山みられました。このきのこの中で傘の表面の渦模様がはっきりしているものがウズハツ、そうでないのがトビチャチタケだと思われます。

■キシメジ科のきのこ

ミネシメジは、大量に観察できました。

ハエトリシメジも1本ですが見られました。ハエトリシメジは旨味の多いきのこです。ミネシメジと似ていますが傘がとがっていてヒダがやや細かいのが特徴です。テングタケもそうなのですが、煮たり焼いたりして皿に入れておいておくと、そこでハエが死ぬということで、蠅取りに使っている地域もあります。

バカマツタケは2本ですが今年も見られました。食用きのことしての注目度が高いバカマツタケですが、次に述べるカブラテングタケやオニフウセンタケと同様、東アジアのシイ・カシ林を特徴づけるきのこも考えられます。

ヌメリツバタケも見つかりました。とても美味しいきのこです。7月ごろから木の幹の高いところに出ていることが多いきのこです。ブナ林に出るヌメリツバタケモドキという種がありますが、今は同種と言われています。



トビチャチタケ



ミネシメジ



バカマツタケ



ヌメリツバタケ



ヌメリツバタケ

■クヌギタケ科のきのこ

チシオタケとサクラタケがともに見られました。ともに桜色の特徴的なきのこですが、チシオタケは材上に、サクラタケは落ち葉から、発生する点が異なります。またサクラタケは大根臭（大根おろしのような香り）がすると図鑑にありますが、匂いで区別するのは難しいかもしれません。またサクラタケはチシオタケのように傷つけても赤い汁は出ません。



サクラタケ



チシオタケ

■ニセキツネノカラカサ属 (Ripartitella 属) のきのこ

Ripartitella 属のきのこは、世界に5種類しか確認されていない大変珍しいきのこです。今回採れたものは、2018年に清澄の東大演習林内で日本で初めて見つけて、形態と分子系統で調べたところ同じものがなく、最初、完全に新種だと思って発表の準備をしていたところ、2019年1月に中国から新種記載の論文がでてしまい、分子系統でも同種ということになり、清澄のものは日本新産種ということになりました（未発表）。今回の千年の森で採れたものは、清澄のものと同じと思われ、千年の森が日本で2番目の産地ということになります。同じ属のものは、中米や南米など熱帯から亜熱帯を中心に分布している、まさに南方系のきのこです。



Ripartitella 属のきのこ

■ツルタケの仲間のきのこ

とても大きなツルタケが見られました。オオツルタケとも思いましたが、柄に模様がないため（またヒダに縁取りがないため）、ただのツルタケだと思います。また今回はカバイロツルタケが多く見られました。



大きなツルタケ

■テングタケ科

観察された中でカブラテングタケは、1962年にマレーシアで新種記載され、沖縄・台湾・中国南部などの東アジアのシイ・カシ林に分布し、いつも申し上げるように、東アジアのシイ・カシ林と共生し、共進化してきたと考えられるグループで、日本の森が東南アジアのシイ・カシ林とつながっていることを示す重要なきのこです。このきのこは、柄の最上部についているツバが不思議な付き方をしています。外被膜と内被膜がどんな破れ方をしたらこんな形になるか、ちょっと考えてみてください。



カブラテングタケ(福島)

■フウセンタケ科

オニフウセンタケは、たくさん見られました。オニフウセンタケも西日本のシイ・カシ林や、ニューギニアのブナ科の森に見られる種類で、カブラテングタケ同様、日本の森が東南アジアのシイ・カシ林とつながっているのを示す重要なきのこです。



オニフウセンタケ

■イグチ科

今回見られたヤシャイグチは、博物館の記録をみると千葉県産の標本は2点しかなく、房総では珍しいきのこです。西日本のシイ・カシ林でよくみられるきのこで、やはり日本のシイ・カシ林を代表するきのこのことと思われます。柄の表面に網目模様があるのが特徴です。



ヤシャイグチ

■ラッパタケ科

ウスタケの仲間が2種見られました。深いカップ状の子実体をつくりますが、その内側に鱗片があるものとないものがあります。ウスタケは、ほとんど鱗片はなくオレンジ色をしています。一方、内側にはっきりとした太い鱗片があり、クリーム色をしたものはウスタケとは別種のもので専門家によれば未記載種とされています。オニウスタケやフジウスタケとよばれたこともあります。フジウスタケは富士山などに見られる巨大な種類です。



ウスタケ

■アンズタケ科

クロラッパタケが非常に沢山見られました。真っ黒ですがクリームシチューなど洋風の料理にも使われる食用となるきのこです。



クロラッパタケ

クロラッパタケ



ウスタケに近いが、中心に鱗片状のヒダがある別の種



ホコリタケ属の1種

■旧腹菌類

ホコリタケの仲間とノウタケが沢山見られました。若い時にこの二つを見分けるのは慣れないと難しいかもしれません。ノウタケは成熟すると上部全体から崩壊するように胞子を散布するのが特徴で、最期には上部の胞子を作る部分は崩壊してなくなり、胞子をつくらない無性基部という土台だけが残ります。一方、ホコリタケの仲間は、胞子が成熟すると頂部に穴が開いて胞子が出てくるので、簡単に区別ができます。共にハラタケ科に属するきのこです。

■子囊菌類

ベニチャワンタケモドキが比較的多く見られました。ベニチャワンタケモドキは、赤い皿の部分に触ると白い胞子が飛ぶのが観察できることもあります。



ベニチャワンタケモドキ

〇きのこの観察目録豊英島 [2019・10・20]

10月に入っても、夏のきのこが主役でしたが、やっと秋のきのこが出て来ました。

特筆すべきは、吹春先生が発見された新種 *Ripartitella* です。和名は未だ付いていないそうです。(松田)

科名	種名
又メリガサ科	サクラシメジ・アカヤマタケ
キシメジ科	シイタケ・ミネシメジ・ハエトリシメジ・バカマツタケ・ <i>Ripartitella</i> 属種
	ヒメキシメジ・モリノカレバタケの仲間
シメジ科	シメジ属種
タマバリタケ科	又メリツバタケ・ツエタケ属種
クヌギタケ科	チシオタケ・サクラタケ
テングタケ科	カバイロツルタケ・ツルタケ・コテングタケモドキ・クロタマゴテングタケ ドクツルタケ・カブラテングタケ
ハラタケ科	ザラエノハラタケの仲間・ニセキツネノカラカサ
フウセンタケ科	アセタケの仲間・オニフウセンタケ・フウセンタケ属種
イッポンシメジ科	ウラベニホテイシメジ・クサウラベニタケ
イグチ科	キニガイグチ属種・ウラグロニガイグチ・オニイグチモドキ・ヤシャイグチ クリカワヤシャイグチ
ベニタケ科	クロハツ・ウコンハツ・ベニタケ属種・チチタケ・トビチャチチタケ キチチタケ・アイバカラハツモドキ・ウズハツ
アンズタケ科	トキイロラッパタケ・クローラッパタケ
ラッパタケ科	ウスタケ・ウスタケの仲間
ホウキタケ科	ハナホウキタケ・ホウキタケ属種
カノシタ科	シロカノシタ
ニンギョウタケモドキ科	コウモリタケ
タマショレイタケ科	キアシグロタケ・ツヤウチワタケ・ウチワタケ・カワキタケ・ヒイロタケ カワラタケ・カイガラタケ・ハカワラタケ
タバコウロコタケ科	ネンドタケモドキ
ホコリタケ科	ホコリタケ属種
スッポントケ科	コイヌノエフデ
シロキクラゲ科	シロキクラゲ
ズキンタケ科	ロクショウグサレキン・ビョウタケ属種
ベニチャワンタケ科	ベニチャワンタケモドキ



沢山のきのこを急ぎ仕分けして並べ

先生の丁寧な解説を

近くでじっくり聴きました

○台風被害の状況



根こそぎ倒れた広葉樹



地上2mで裂けたヤマザクラ



コナラ高木が折れて通路を塞ぎ



荒れたホテイチク林(坂本)

倒木と折れた大きな枝が林内に散乱しています。落葉樹、特にサクラの大径木の倒木が目立ちます。根こそぎ倒れたもの、地上部が裂けたもの、高所で折れたものが散在しています。島入り口から祠山方面に向かう通路はコナラの倒木で塞がれ、二ホンジカ調査Dコースは崖崩れで立ち入り出来ません。植生保護柵も倒木や枝で傾いた箇所が多く見られます。またホテイ岬には1mほどの高さで折れたホテイチクが多数あります。

以上は今回見た範囲での状況ですが、全体像は不明です。復旧のためにはまず被害状況の調査が必要です。そして復旧計画をたて、復旧作業を始める必要があります。倒木の処理は会員ではできないものも多く、委託先や予算の検討も必要です。(真鍋)

○倒木の処理

島入り口の畑脇駐車場の真ん中に大きなウラジロガシ(直径約20cm)が倒れて駐車場の邪魔になっていました。チェーンソーで切断し、幹や枝などを整理しました。苅米を中心に秋元、友塚、久我で作業。また千年広場脇にある、大きなコナラの枝が折れて、地上に落ちそうになっています。これを根本から伐倒して、安全を確保しました。(苅米)

この他、通路に倒れている倒木や枝を、チェーンソーで切断して処理しました。林内には、この他多くの倒木や枝折れがあります。(久我哲也)

農道脇から倒れて害獣防護柵を押しつぶし、道を塞いでいた桜の大木は地主さんが片付けてくれたようで、車が通れるようになっていました。ただし太い枝は土手の斜面に放置したままでしたから、短く切り詰めて二か所に集積しました。水田脇ですからここで焼却も可能ですが、乾燥させて調理用薪にもできます。(坂本)



畑駐車場のウラジロガシ伐採

○ギャップ更新林保護柵の補修

台風15号によりコナラが倒れて保護柵を直撃していました。金属の支柱は折れ曲がり、ネットは傾いていました。苅米さんがチェーンソーで倒木を切断し、新井さんと一緒に60cmほどに切断された幹や枝を保護柵の外側に片付けました。折れ曲がった金属のネット支柱は2本を新しいものに換え、この廃材となった金属支柱をぐらぐらと不安定となった支柱の補強に使用しました。ネットには70cm×10cmほどの穴が開いていました。これを1mほどの細紐で絡げて穴を塞ぎました。

柵内には直径10cmほどのコナラの枝が折れて落下し、柵や低木の上に覆いかぶさっていました。これをノコギリで切断し柵外に片付けました。このコナラの枝によりクサギ(樹高6m)、ハギ(樹高4m)が根本から倒されてネットにもたれ掛かっていました。クサギとハギに支柱をあてがい起こしました。

例年、彩りを添えるシラヤマギク、シロヨメナの花は10月上旬には終わったようです。白いアキバギク、オケラ、ナガバノコウヤボウキ、黄色のアキノキリンソウが数は少ないもののしっかりと咲いていました。ネットが倒れていた期間柵内の植物は食害には遭わなかったようです。(秋元)

○物置小屋の修復

物置小屋は、先日の台風 15 号によって、屋根が後方にひしゃげる形で変形し、屋根のシートが完全に飛ばされて、保管していたものは全て雨に濡れ水を含んでいました。特に、救急箱の中に入っていた、薬品も水浸しになり、片手で握っただけで水滴がしたたるほどですから使用できません。中身は全て廃棄処分として新規購入の必要があります。修復作業は坂本、苅米さんと久我（則）で行い、保管物を一旦外に出し、再度整理して保管しました。屋根にはブルーシートを取り付け応急処置したので、当面は雨に濡れる心配は無いと思います。（久我則子）



台風で倒壊した物置(9/16 坂本) 応急処置で修復後(坂本)

きのご観察を見送り、物置修復、倒木処理やギャップ林の修復などにご尽力の方々に感謝します。（坂本）

○昆虫観察記録

雨上がりで晴れて暖かかったのですが、虫の姿はほとんど見られません。台風のあと、ぐっと虫は少なくなりました。鮮やかな黄色い翅のキタキチョウが飛んでいる程度で、寂しいかぎりです。風雨から逃れられた虫たちはどこに？台風で倒れた木が多かったので、枯葉をたたくて虫を探しました。一番多かったのはチャバネアオカメムシで、他にキボシアシナガバチ、クモ類など数種類の虫が見られました。枯葉は冬の越冬場所として大切な棲家になりそうです。

「クロハツにモゾモゾ動いている虫がいたよ」と見せてくれたのは、センチコガネ。苅米さんもペットボトルに入れたセンチコガネを見せてくれました。きのごを食べるこの虫は沢山いるようで、ブルーシートに並べたきのごの上を「ごちそうだー」と何度も飛び交っていました。



チャバネアオカメムシ

センチコガネ

クロコノマチョウ

ホソミオツネトンボ

コウヤボウキの花にホソヒラタアブ、枯葉そっくりなクロコノマチョウ、地味なホソミオツネトンボ、これらは成虫で越冬する虫たちです。春まで命をつなげられますように！

(他に観察された昆虫)

オオアイトトンボ、モリチャバネゴキブリ、オオカマキリ、モリオカメコオロギ、カネタタキ、ニホントビナナフシ、ツクツクボウシ、ツマグロオオヨコバイ、ベッコウハゴロモ、アオバハゴロモ、ホソヘリカメムシ、マルカメムシ、ツヤアオカメムシ、オオセンチコガネ、ダンダラチビタマムシ、トゲアリ、ホシホウジャク (田島)

台風で荒れた島にきのご (ちば里山p 友塚新樹さん寄稿)

・大型台風のあと、初めて豊英島に上陸。集合時間前、早く現地に着いたので、駐車スペースを遮るウラジロガシの処理を少しだけお手伝いしました。森の整備にもっと力を貸すべきだったかもしれませんが、島の中の様子を見たいこともあって、当初の予定通り、当日はきのごの観察班に入れてもらいました。路の途中、途中に倒れた木。聞いていた通りのひどい状況です。広葉樹ではサクラとコナラの被害が目立ちました。頭上に注意しながら、目指すは、禁



駐車スペースの倒木

断の岬、バカマツタケ。とは言っても、きのこを見つける度に足が止まってしまいます。写真を撮るのに思いっきりの低い姿勢。きのこを観察する人、探しまわる人を観察するのも面白いです。さて、バカマツタケが一本、禁断の岬へ続く尾根沿いの道から少し外れた斜面にありました。鼻がいい方は、尾根にいても匂いが分かると言いますが、私には全く無理。正直に言えば、皆さんが言うような、いい香りというのがしない、分からないのです。悲しい。

・禁断の岬の手前で倒れた大木が道を塞ぎ、迂回するにも左右は急斜面。先へ進んだのは3名のみ。枝を掴み、足場を確かめながら、慎重に。きのこもあるかと周囲も見つつ・・・しんどい思いをしてなんとか先端まで行き、崖を覗きこみましたが、心理的に身構えていたのか、今までと違ってちょっと怖い感じがしました。誰かが「これで本当に禁断の岬になってしまった」と呟きました。午前中、ほかにもミネシメジ、チシオタケ、ツエタケ、オニフウセンタケ等々、見つかりましたが、きのこだけではありません。尾根すじの斜面を横切って逃げていく鹿。私は首から上だけでしたが、比較的近い位置から見る事ができました。また、トグロをまいて警戒するマムシ君も。台風で荒れているのにさらにワイルド感アップ！

・夢中だと時間が経つのは早いもの。お昼ごはんをさっさといただき、午後は、コウタケを探しに、いざ、ホテイ岬！鼻の利かない私にはバカマツタケよりもコウタケが一番のターゲット。いつもの場所にみんなで向かいましたが、あら、ない・・・昨年の記憶を辿り、コウタケが出ていた場所を見て回りましたが、やはりありませんでした。

去年の秋のきのこの観察会も時期はほぼ一緒。台風の影響があるのでしょうか？気温ももう少し肌寒かったかもしれません。「ひと月違うときのこの出方も大分変わるから」と話す声。う～ん、来月は参加できないので、楽しみは来年に持ち越しです。今年は、来月の千年の森便りを待つことにします。



路にかかる倒木



倒れたサクラ



菌輪を見つけて



斜面を這い上がってきのこ

○コナラの年輪調査

千年広場の南側にあったコナラが途中から折れたため伐採しました。その幹の年輪を調べました。5年ごとの成長を見ますと20年辺りまでが大きく成長し、その後の成長は緩やかになっていっています。コナラの寿命が約80年といわれていますが、20年までは成長期、その後は成熟期となっているようです。

人の寿命と重ね合わせたように一致しているように思えました。(秋元)



伐採した コナラ	幹回り	93cm
	最大径	34cm
	年輪	57年

年輪間隔 (年)	成長量 (cm)
0～5年	1.8
5年～10年	2.8
10年～15年	2.4
15年～20年	2.4
20年～25年	1.1
25年～30年	1.1
30年～35年	0.9
35年～40年	0.8
40年～45年	0.8
45年～50年	0.7
50年～55年	0.9

○ニホンジカ観察記録

きのこを観察しながら、吹春先生を含む約 10 人で禁断の岬を目指していた時でした。尾根の南側斜面下をニホンジカの雄 1 頭が、岬方向から入り江のほうに向かって駆け抜けていきました。体は黒っぽく、頭にははっきりと大きな角が見えました。

この時期はニホンジカの発情期にあたり、雄のシカは縄張りを張るために通常とは異なった動きをします。今回観察された雄のシカは、もしかすると豊英島を縄張りとしている個体なのかもしれません。

今日は、時おり発情期の雄シカのピーヨーという声（ラットコール）が聞こえていました。（福島）

「奥山に紅葉踏みわけ鳴く鹿の 声きく時ぞ秋は悲しき」猿丸太夫

○ヒメコマツ；禁断の岬のヒメコマツが 1 株褐変して枯れていました。禁断の岬のヒメコマツが枯れたのは初めてです。（真鍋）

○ツチアケビ；コナラ林ヒメコマツ保護柵内のツチアケビは全株茎も果実も無くなっています。保護柵内に動物の侵入は難しく、茎を食する野鳥がいるとも考えにくいので、原因はわかりません。（真鍋）

お知らせ

○11月の活動日；11月17日（日）9：30清和自然休養村センター（直売所）駐車場集合。

台風被害の状況（倒木、崖崩れ、通路、保護柵の状況等）を調査し、実施可能な復旧作業に着手する。また今後の復旧作業について協議し、会で実施可能な作業と外部委託が必要な部分に仕分けする。

参加者は作業に必要な服装、ヘルメット着用のこと。チェーンソーお持ちの方は持参ください。

○12月の活動日；12月8日（日）9：30清和自然休養村センター（直売所）駐車場集合。

計画に従って復旧作業を最優先で実施する。年度当初計画されていたシカ個体数調査、巨木林成長量調査、物置整備などは復旧作業との関連で実施可能な範囲で実施する。